

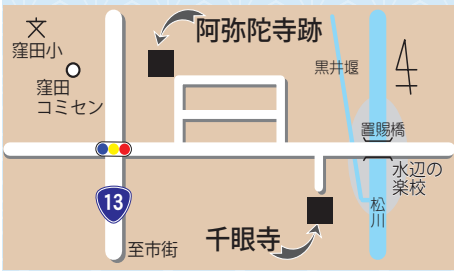
第13回

阿彌陀寺跡と木造勢至菩薩坐像

(窪田町窪田)



▲阿彌陀寺跡



▶木造勢至菩薩坐像(県指定有形文化財)―『山形県の文化財』発行 山形県教育委員会より

12月といえば赤穂浪士の吉良邸討入が思い出されます。今月は、吉良家菩提を供養した窪田町の阿彌陀寺跡と、千眼寺の勢至菩薩坐像を紹介します。

生善院が創建した浄土宗寺院

阿彌陀寺は元禄6年(1693)に京都の金戒光明寺の末寺として創建された浄土宗の寺院です。上杉綱勝の実母である生善院が、上杉家縁者の長命を願って建立したと伝えられています。生善院は吉良上野介に嫁いだ三姫(富子)の母でもありました。

江戸の増上寺とも縁が深く、元禄13年には同寺34世証誓雲臥より山号・寺号の額を受けました。また、本尊の勢至菩薩坐像は霊験あらたかな仏像として知られ、宝永元年(1704)に江戸で御開帳され、徳川綱吉の生母・桂昌院(一位様)にも篤く信仰されました。

阿彌陀寺は正徳2年(1712)に火災に遭い寺号額などは焼失、幸い本尊は無事で、翌3年に再び江戸で勧進開帳を催し、募金を集め再建されました。

清寿院の信仰と祐天上人

享保3年(1718)より阿彌陀寺で、江戸の祐天上人が開く常念仏(絶え間なく念仏を唱えること)が始まりました。願主は上杉綱憲の側室であった清寿院

と宝寿院で、靈性寺殿(吉良上野介の法名)・室燈院殿(吉良義周の法名)と他3名の菩提を供養する常念仏でした。清寿院は吉良義周の実母です。義周は祖父にあたる上野介の養子となり、討入事件に遭遇、宝永3年(1706)に配流された諏訪高島で21年の短い生涯を閉じました。清寿院は13回忌にあたり、実子義周と吉良家の供養を祐天上人にお願いしたのと思われれます。

祐天上人は増上寺36世ですが、念仏の力で怨霊から多くの人々を救った僧として著名です。後に目黒に祐天上人の廟所でもある祐天寺が開かれました。

祐天寺による阿彌陀寺跡の整備

その後、阿彌陀寺は再び火災に遭い、以後は西蓮寺などの兼務となり、昭和20年以降に廃寺となりました。仏像や吉良上野介・義周の法名が刻まれた位牌は千眼寺に移され、寺跡は荒廃し、六地藏などは草に覆われました。

平成22年、祐天上人の事跡を調査していた東京の祐天寺は、阿彌陀寺跡は祐天所縁の大事な遺跡として、石仏や石碑を整備して供養を行いました。

なお、千眼寺に移された本尊の木造勢至菩薩坐像は、平安末頃作成の貴重な仏像として、平成2年に山形県の有形文化財に指定されました。

雪のシーズンいよいよ到来～みんなの安全守るため、出発進行！～

米沢国道維持出張所で行われた除雪車出動式。安全祈願祭が行われた後、塩井保育園の園児からオペレーターに除雪車の鍵が手渡されました。そしてオペレーターと一緒に除雪車の前でポーズ!これからの降雪シーズン、皆さん安全第一で作業してくださいね。(11月5日撮影)



表紙解説